

2022年3月期第2四半期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）

2021年11月10日



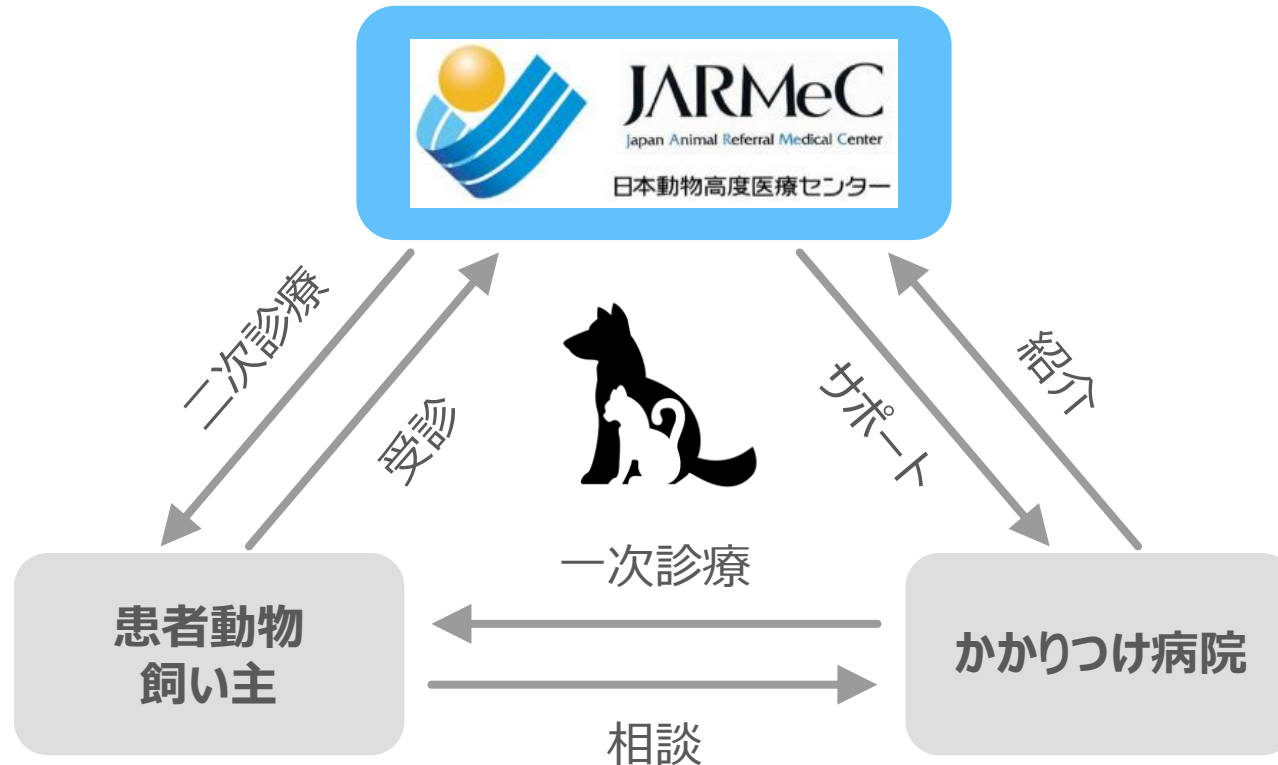
- I 決算の概要
- II 市場動向および中期展望



I 決算の概要



当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ コロナ禍において動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類

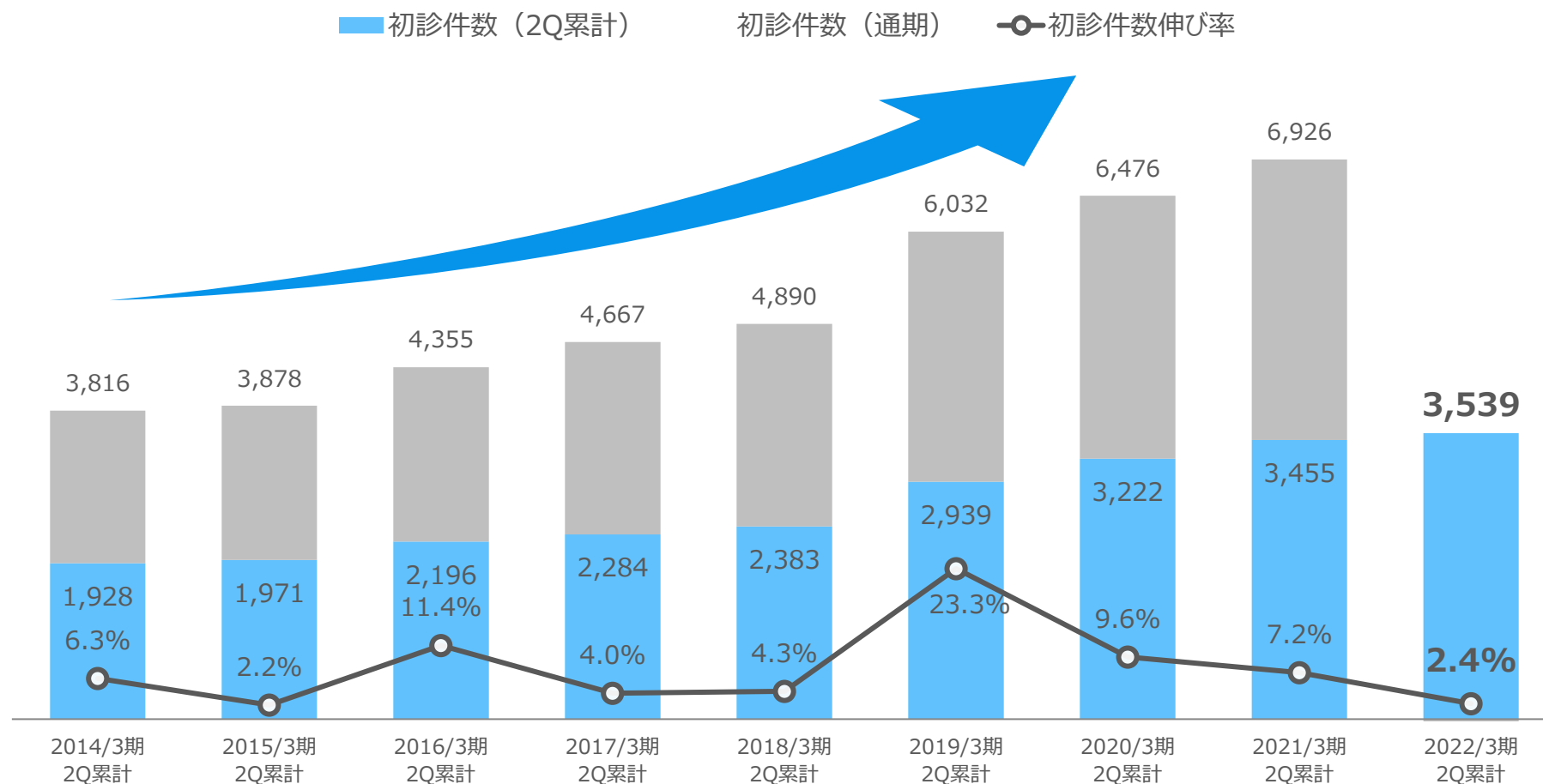
2022年3月期第2四半期累計期間 決算概要

- 初診件数及び総診療件数の増加が続き、第2四半期累計期間における過去最高売上を更新
- 事業拡大に伴う人件費の増加等も相まって、営業利益以下は減益となる

(百万円)	2021/3期			2022/3期				
	2Q累計実績	進捗率	通期実績	2Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	1,410	49.5%	2,847	1,437	+26	+1.9%	49.1%	2,930
営業利益	196	48.5%	405	182	▲14	▲7.2%	44.5%	410
経常利益	196	47.8%	410	186	▲9	▲5.0%	44.4%	420
親会社株式に帰属する 四半期純利益	134	47.3%	285	127	▲7	▲5.5%	43.9%	290
1株当たり 四半期純利益	57.3円	—	120.7円	53.4円	▲3.8円	▲6.7%	—	121.7円
初診件数	3,455件	49.9%	6,926件	3,539件	+84件	+2.4%	49.6%	7,140件

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 伸び率は鈍化したものの、初診件数は増加を維持。第2四半期累計期間においては過去最多件数を更新



事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

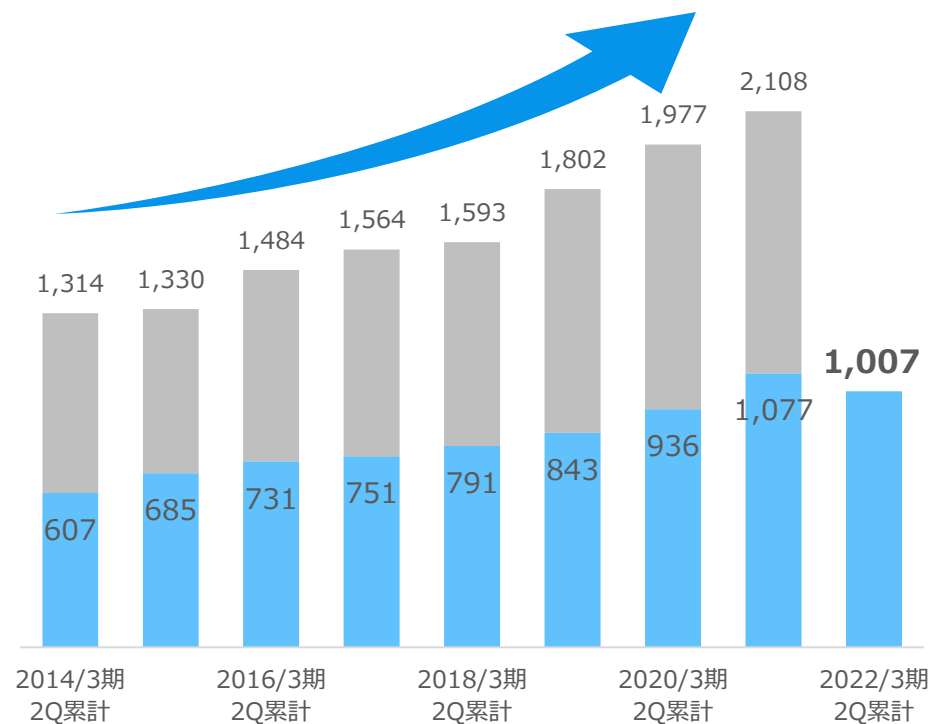
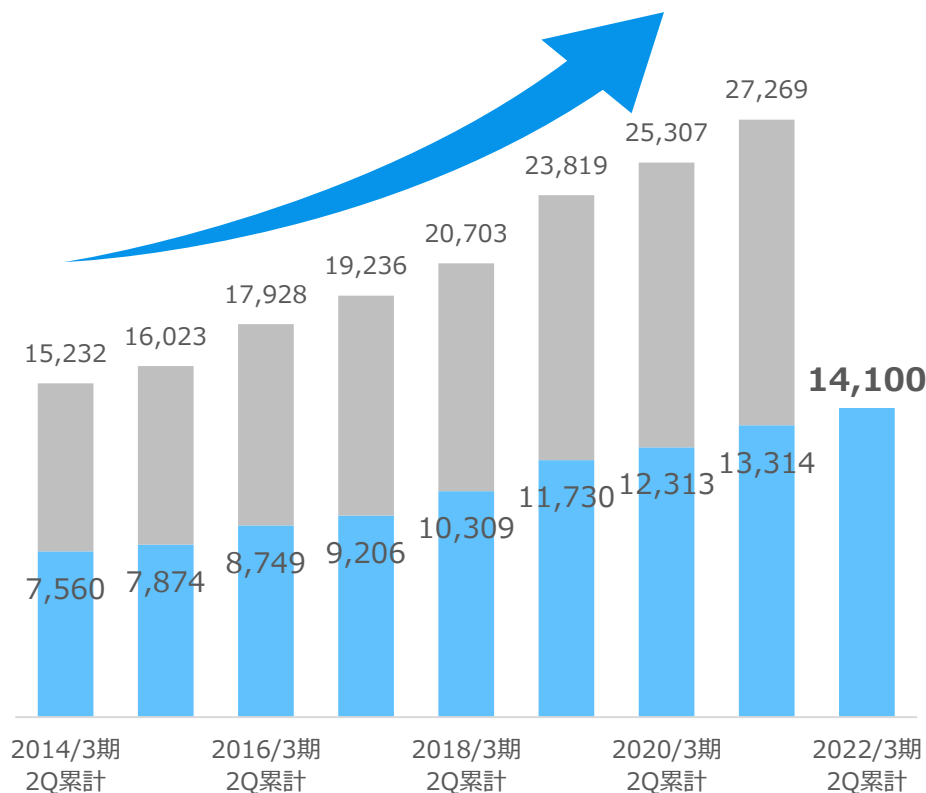
- 総診療件数は増加基調を維持し、第2四半期累計期間において過去最多件数を更新

総診療件数の推移

手術件数の推移

■ 総診療件数 (2Q累計) ■ 総診療件数 (通期)

■ 手術件数 (2Q累計) ■ 手術件数 (通期)

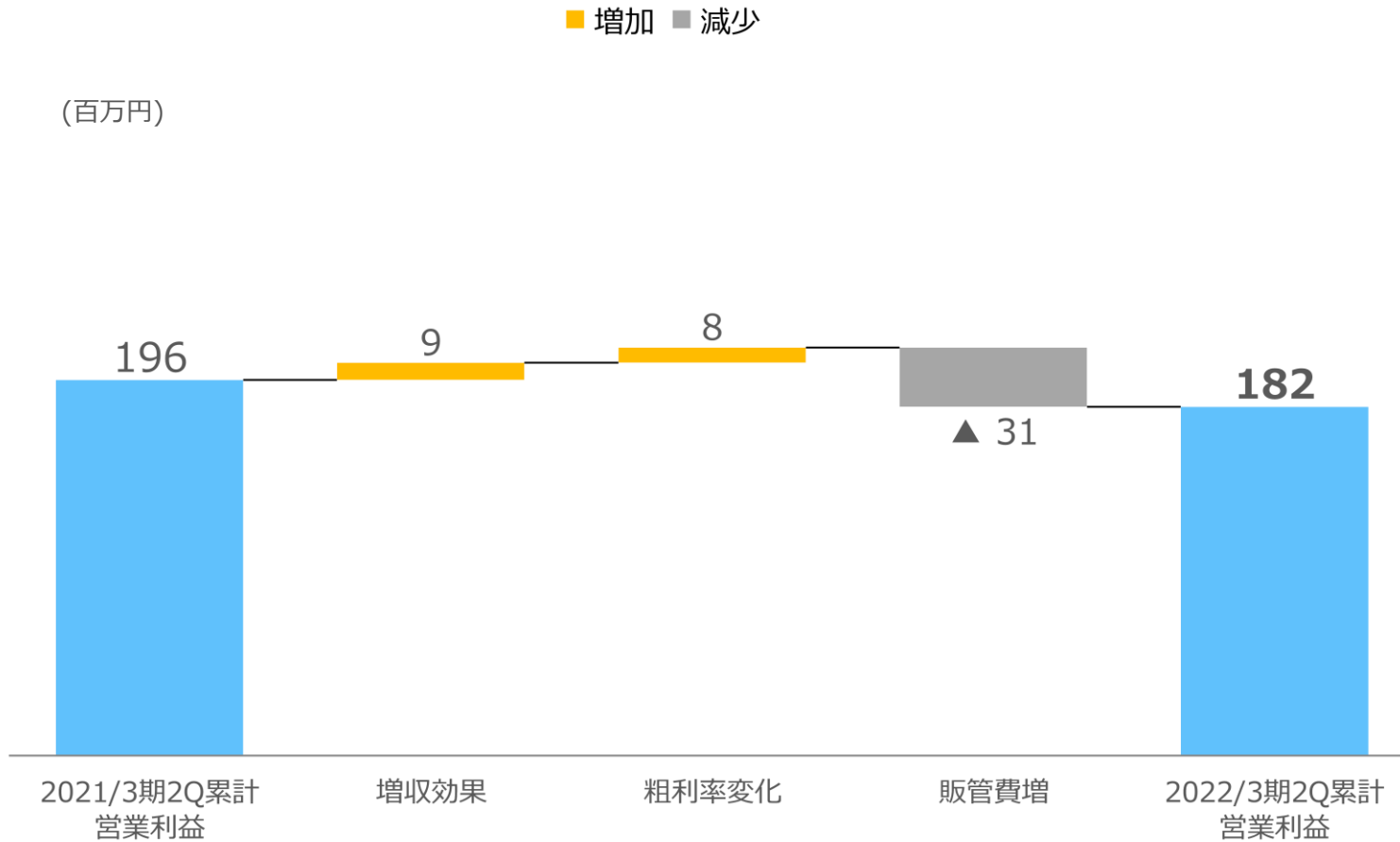


注：総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

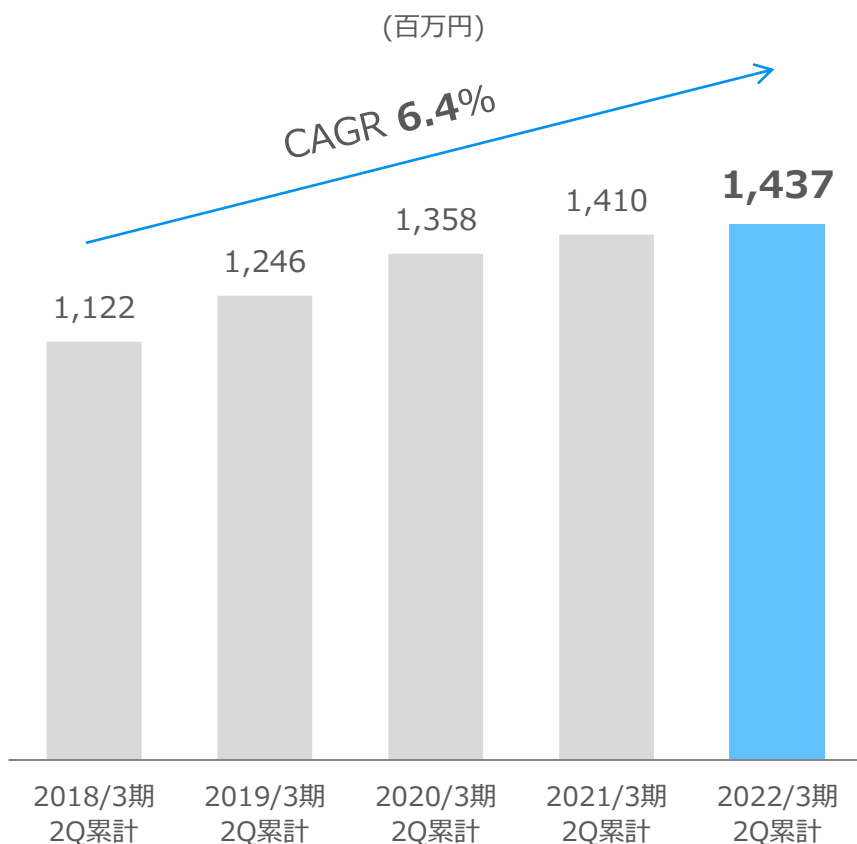
- 大阪病院*等、今後の事業拡大を見据えた従業員の増加及び待遇改善に伴う人件費の増加等により、前年同期比増収し粗利率は改善するも、販管費の増加分を吸収しきれず営業減益

*2023年3月に開院予定の新規診療施設

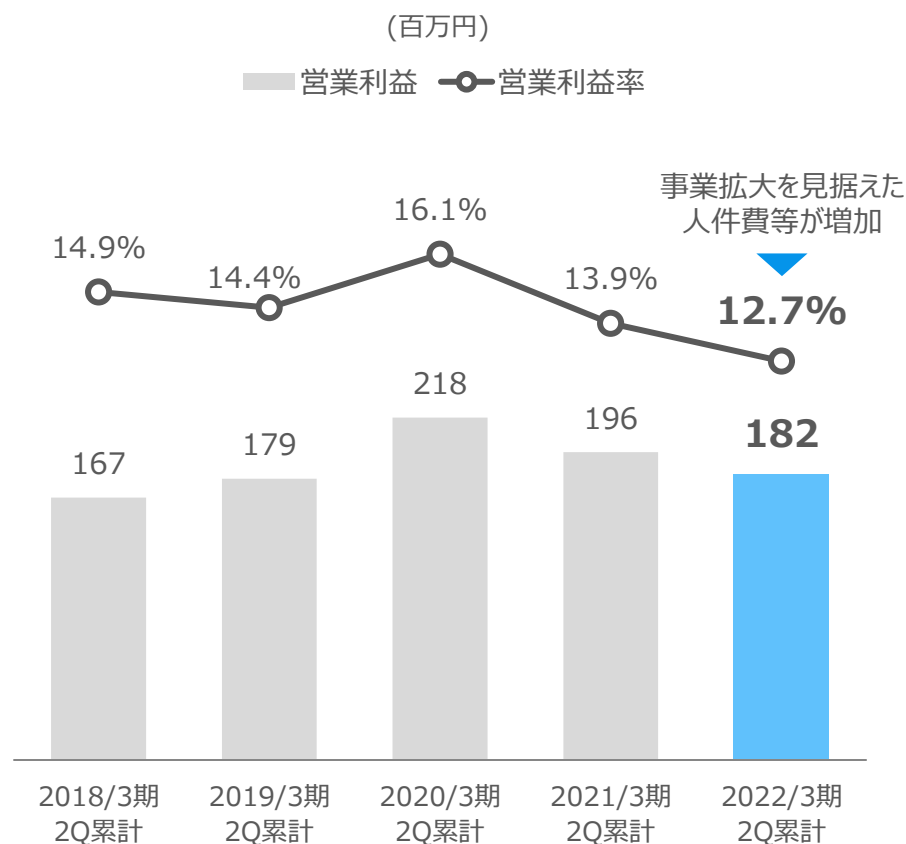


- 売上高は、前年同期比1.9%増の14億37百万円となり、第2四半期累計期間において過去最高売上を更新
- 営業利益は、同7.2%減の1億82百万円で着地

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



バランスシート状況

- 有利子負債が減少し、有利子負債依存度は49.7%に低下。負債合計も3億33百万円減少
- 株主資本は1億28百万円増加し、自己資本比率は43.7%へ上昇

(百万円)	2021/3期	2022/3期2Q	3月末比
流動資産	1,457	1,324	▲133
現預金	1,214	1,083	▲130
売掛金	148	140	▲8
固定資産	4,386	4,314	▲71
有形固定資産	4,198	4,121	▲77
総資産	5,844	5,639	▲204
負債	3,507	3,174	▲333
有利子負債	3,074	2,805	▲269
純資産（株主資本）	2,336	2,464	+128
負債純資産合計	5,844	5,639	▲204

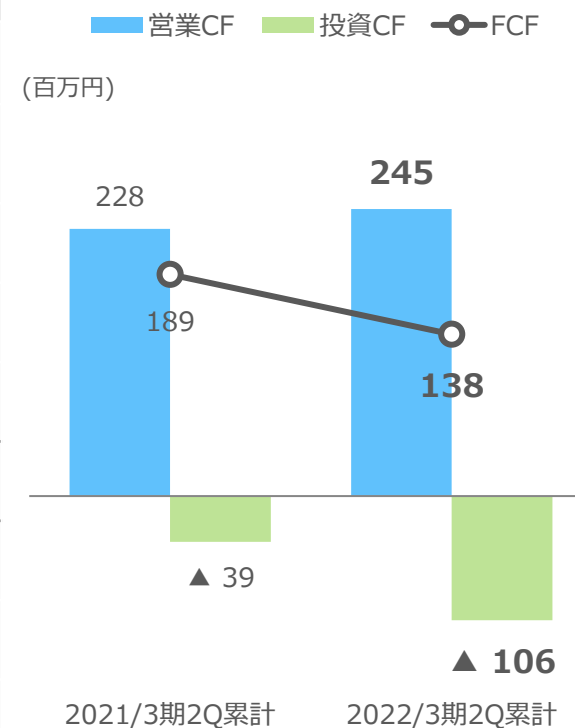
有利子負債依存度は
52.6%から49.7%に低下

自己資本比率は
40.0%から43.7%へ上昇

キャッシュフローの状況

- 四半期純利益は減少したものの、営業CFは16百万円増加しプラスを維持
- 医療機器更新等の設備投資増加により、投資CFは▲1億6百万円となるも、FCFはプラスを維持

(百万円)	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	前年同期比
営業CF	228	245	+16
税金等調整前 四半期純利益	196	185	▲11
減価償却費	118	112	▲6
投資CF	▲39	▲106	▲67
有形固定資産取得	▲35	▲88	▲52
FCF*	189	138	▲50
財務CF	▲306	▲269	+36
有利子負債の増減	▲162	▲269	▲106
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,031	983	▲48



*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

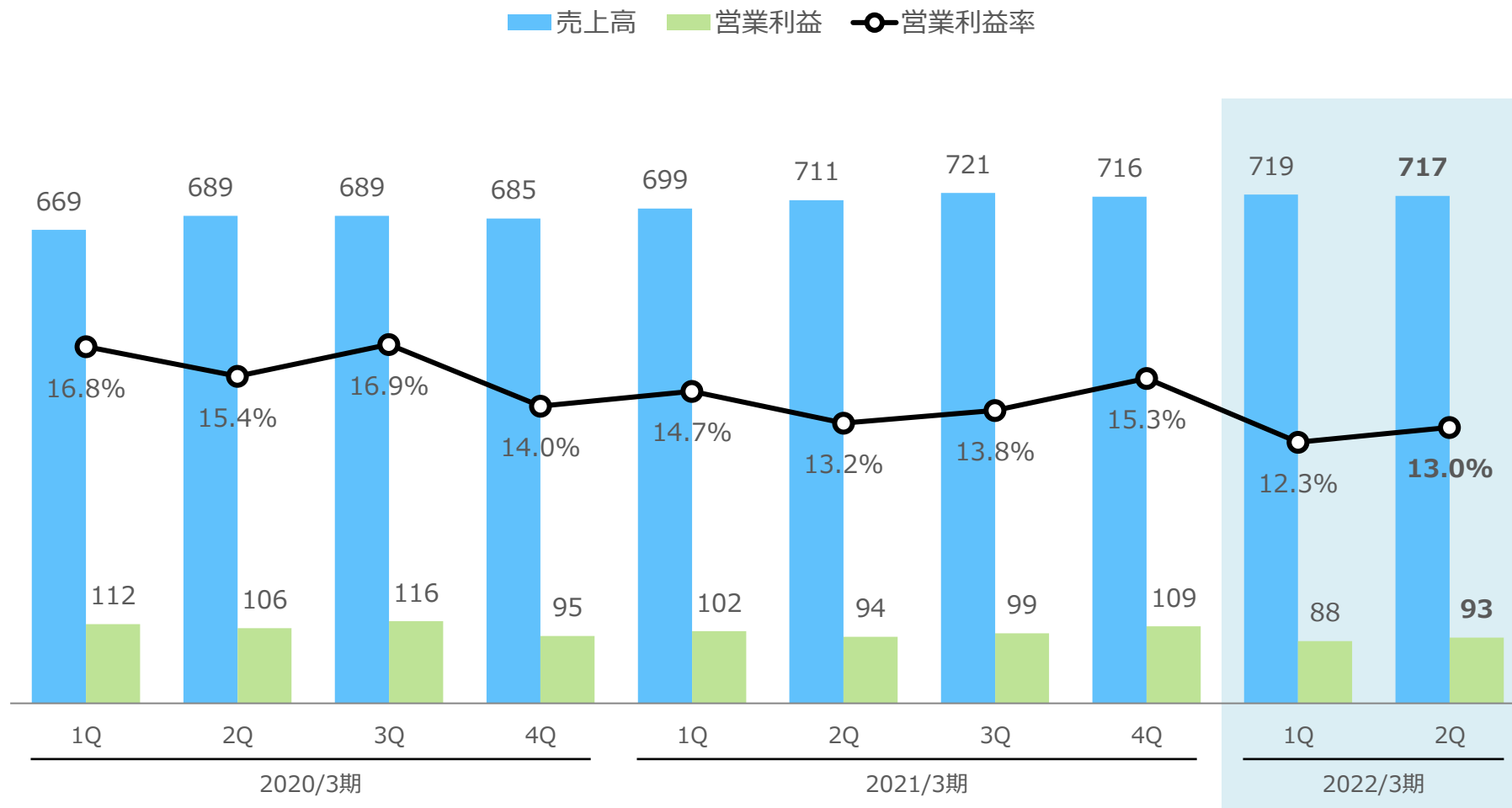
2022年3月期の見通し

- 通期計画については、当初予想からの変更はなし
- 引続き一次診療施設とのコミュニケーション強化を継続し、初診件数含め診療件数の増加を図る

(百万円)	2021/3期		2022/3期				
	実績	構成比	上期実績	通期計画	構成比	前期比	
売上高	2,847	100.0%	1,437	2,930	100.0%	+82	+2.9%
営業利益	405	14.2%	182	410	14.0%	+4	+1.1%
経常利益	410	14.4%	186	420	14.3%	+9	+2.2%
親会社株主帰属 当期純利益	285	10.0%	127	290	9.9%	+4	+1.7%
初診件数	6,926件	—	3,539件	7,140件	—	+214件	+3.1%

(ご参考) 四半期決算 業績推移

- 当第2四半期累計期間においては前年同期比増収減益であるも、四半期比では営業利益・営業利益率は改善
- 下期以降も想定通りの進捗を見込む



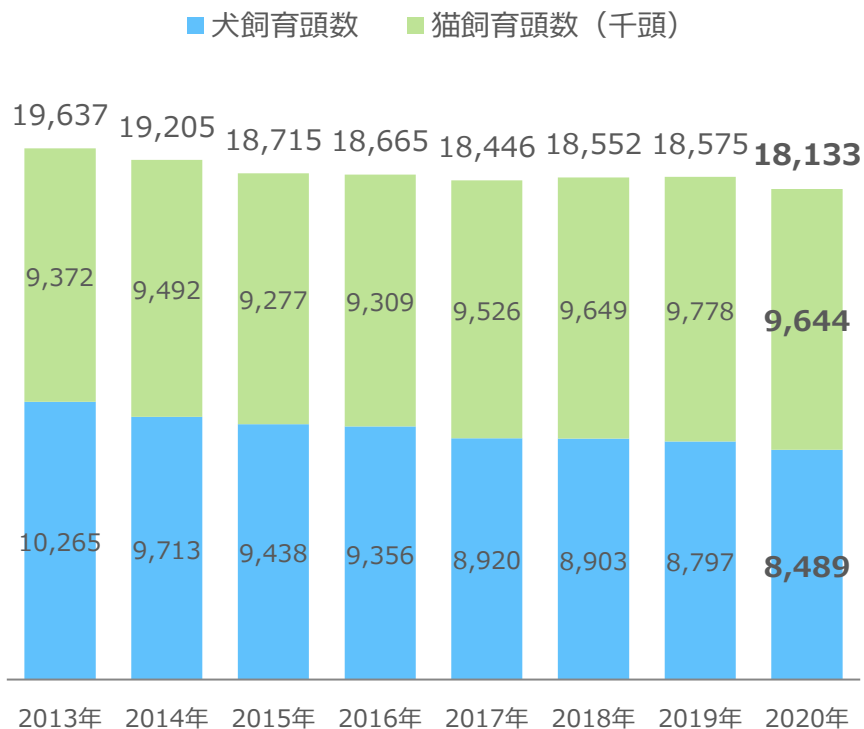
Ⅱ 市場動向および中期展望



動物医療業界を取り巻く環境

- 犬猫飼育頭数は減少傾向にあるが、空前の猫ブームにより2018年～2019年にかけては増加に転じるも、犬の飼育頭数は減少が続き、全体では再び減少傾向
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で増加傾向。2020年には新型コロナの巣籠もりの影響等により、前年比15.2%増加し過去5年間で最多

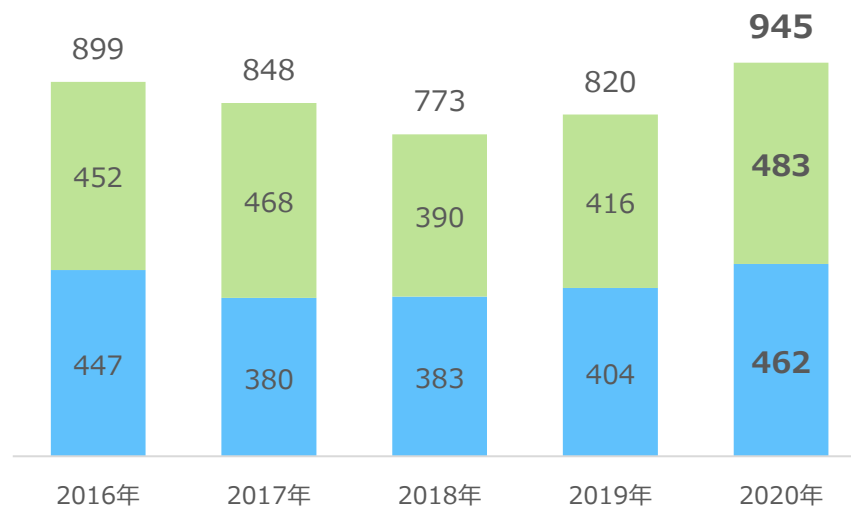
犬猫飼育頭数



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）



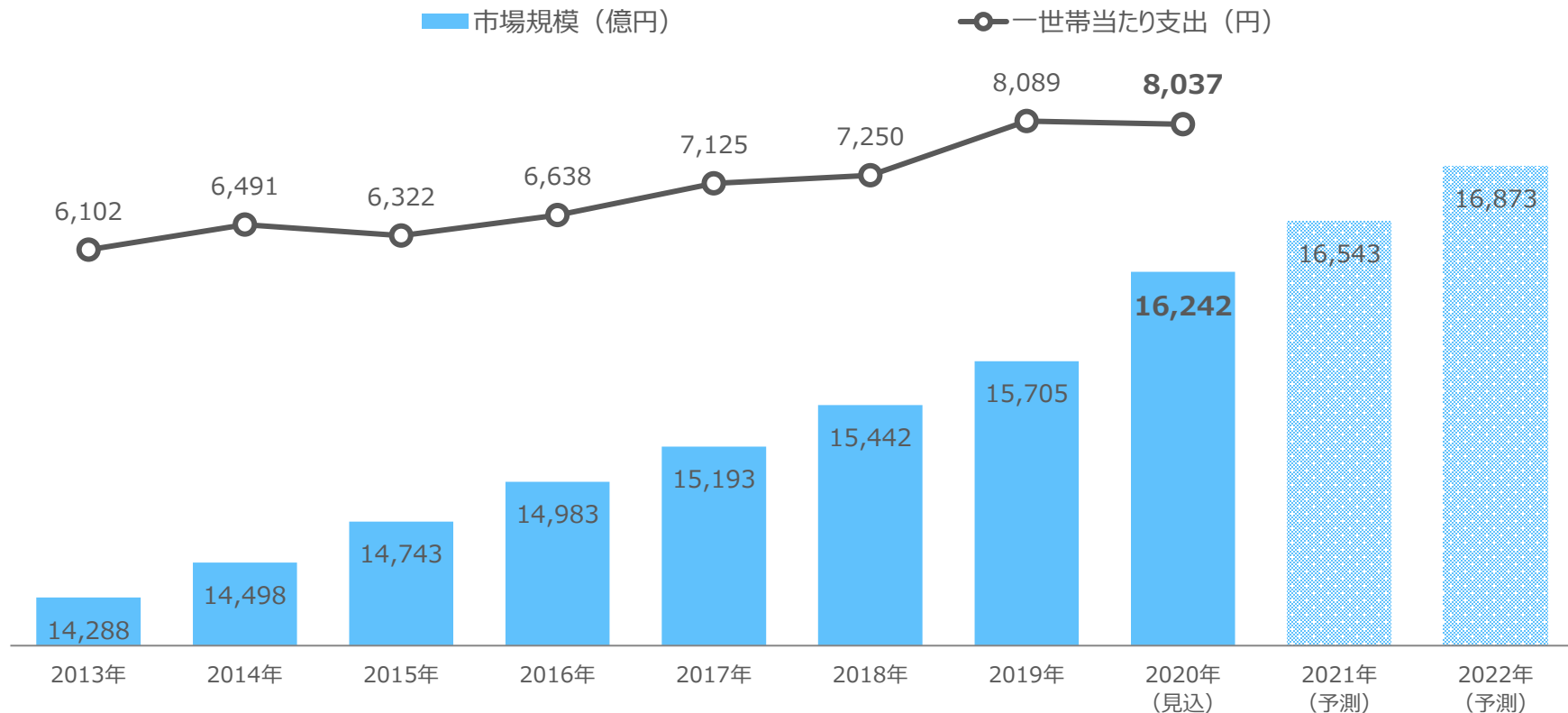
出所：ペットフード協会「令和2年 全国犬猫飼育実態調査」

ペット関連総市場規模

- ペットの家族化により、犬猫の高齢化に伴い疾病が多様化する中で飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加し、世帯当たりの動物病院支出額は増加傾向
- ペット関連総市場規模は年々拡大

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体

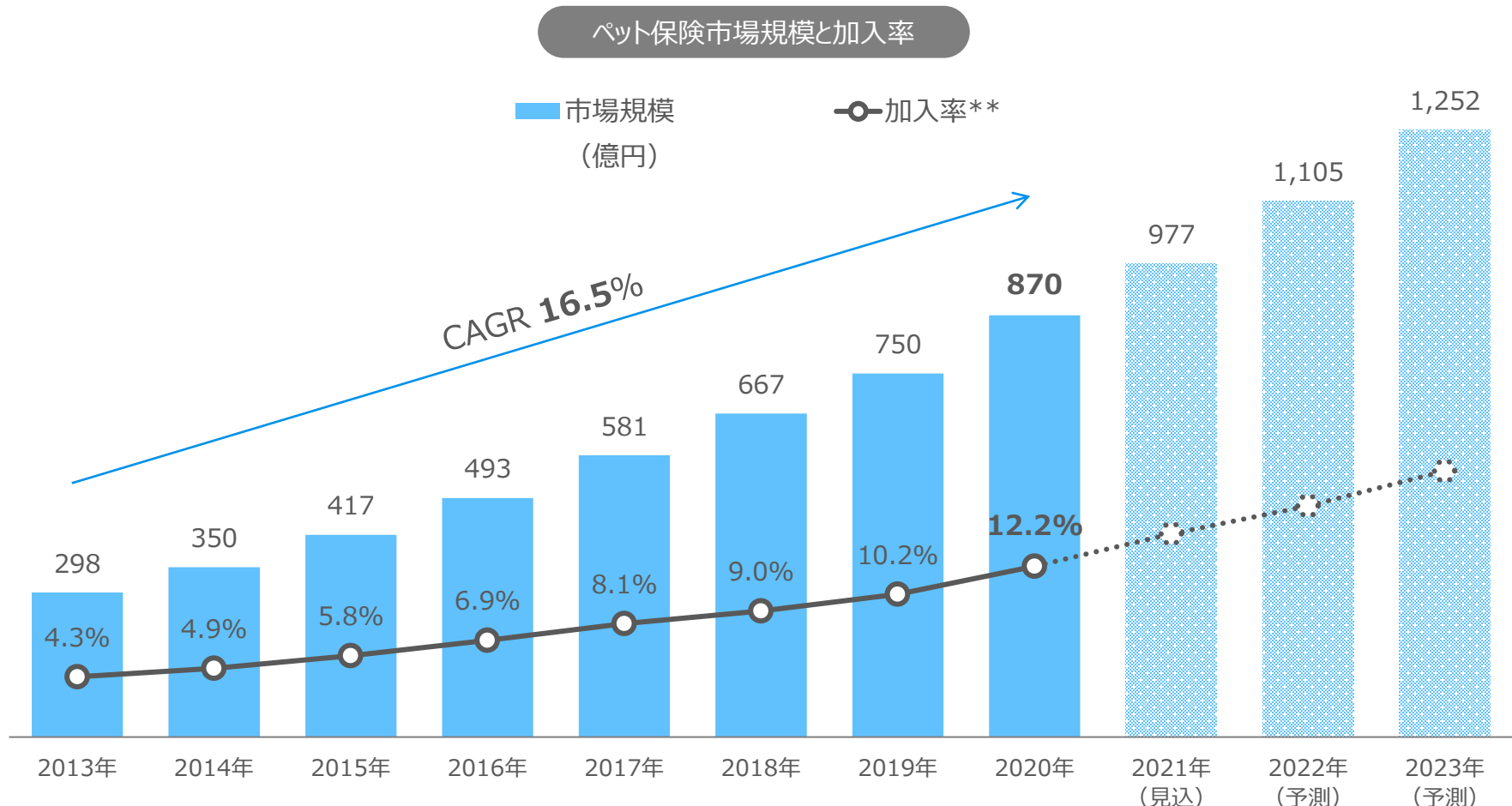


出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット保険の成長性

- ペット保険の市場規模は年平均16.5%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい



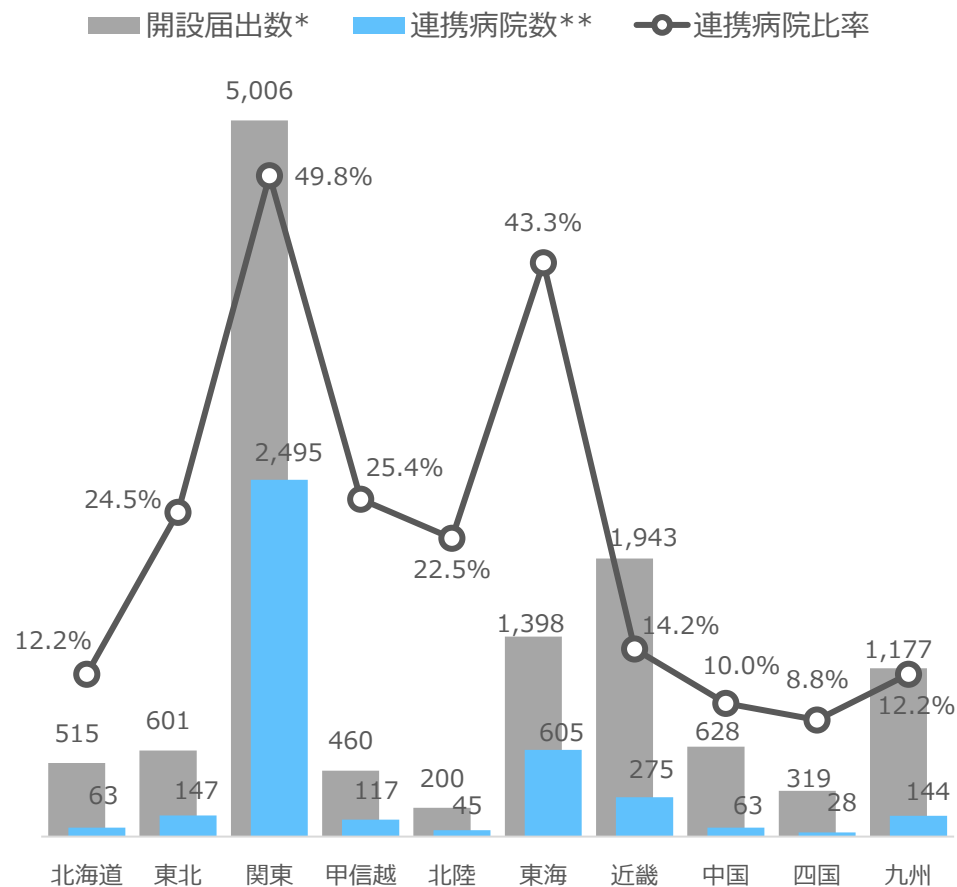
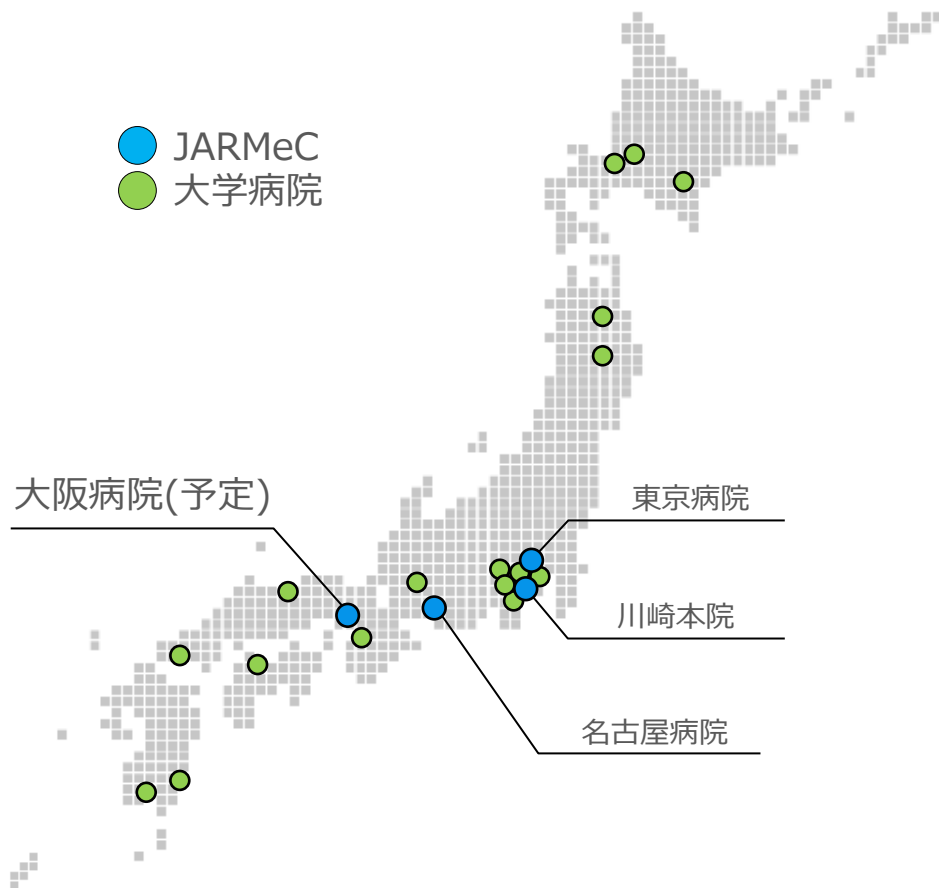
*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2021ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

拠点の拡大

- 大阪病院は、建設計画の見直しに伴う設計変更及び箕面市との条例再協議・許可取得等に想定以上の時間を要し、また新型コロナによる資材調達環境悪化等の影響もあり、着工を2022年1月、開院予定を2023年3月へと日程を延期
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進中

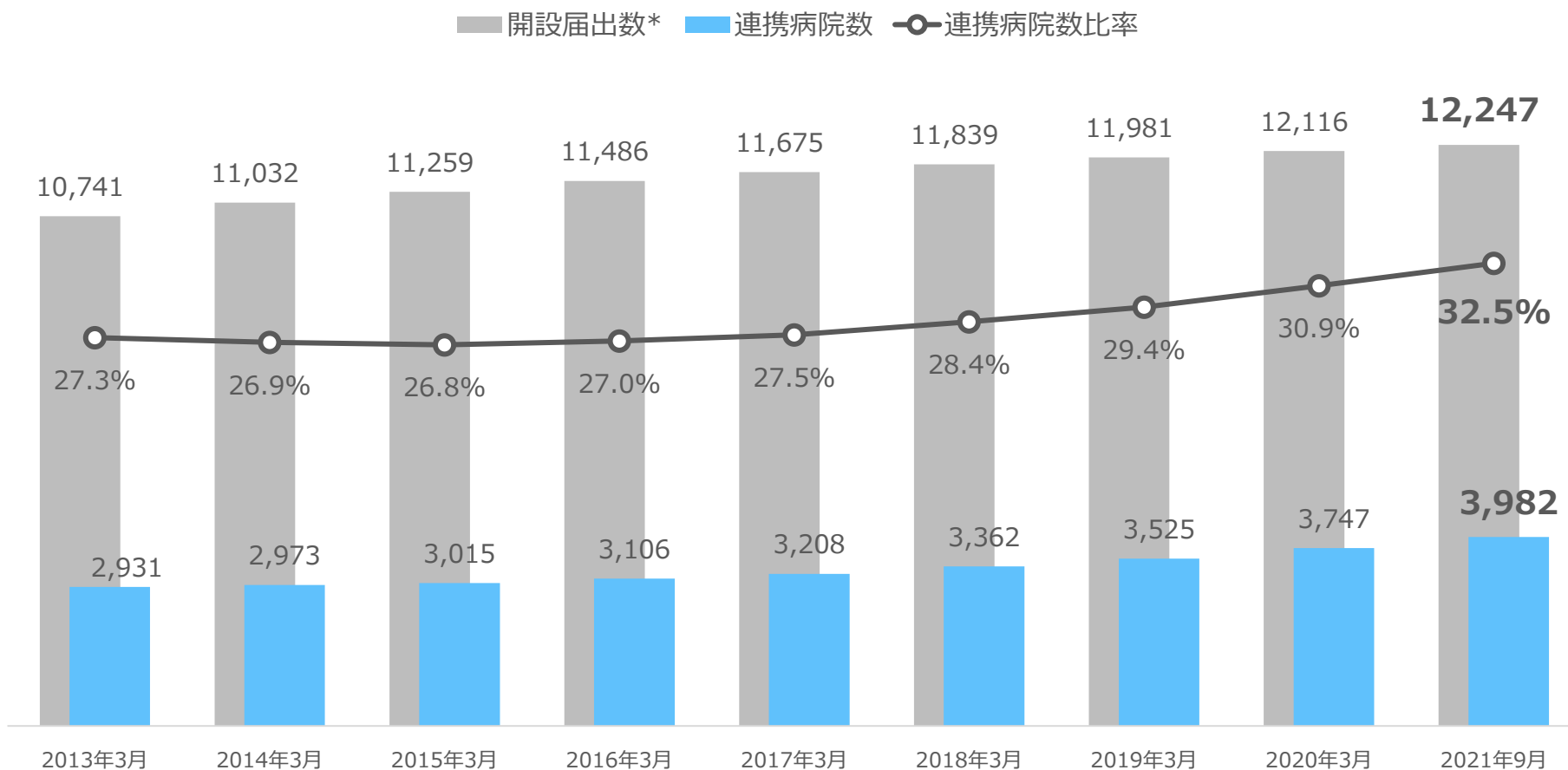


*開設届出数は農林水産省（2020年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2021年9月末時点の件数

連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2021年9月末時点で全国3,982施設と連携し、連携病院数比率は32.5%を達成



*開設届出数は農林水産省（2020年12月末時点の小動物診療施設の件数）

- 拠点拡大の一環として、診療を行う獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を実施

人材確保

- ◆ 優秀な人材の確保
 - 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
 - 採用活動を積極的に実施
- ◆ 従業員の育成
 - 獣医師、動物看護師へOJTの実施
 - 外部セミナーの活用

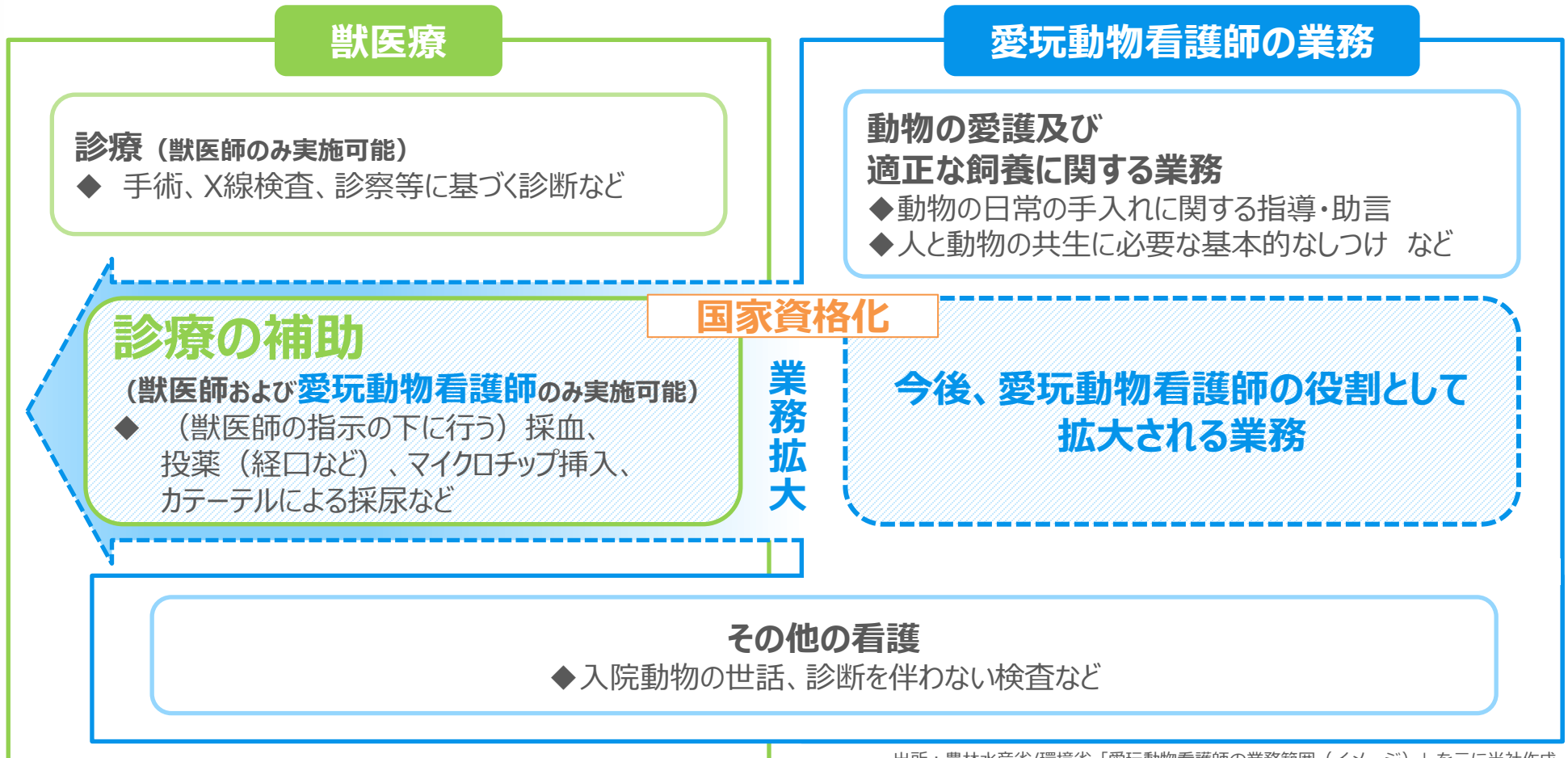
役割の拡大

- ◆ 動物看護師の国家資格化（愛玩動物看護師）
 - 動物看護師の国家資格化による役割の拡大、獣医師の負担軽減
 - ➡ 業務の効率化・生産性の向上

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月末～3月頃に実施予定

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）。



- ◆ M&Aも活用した事業領域の拡大
 - 動物医療に関連した事業の買収を推進
 - ➔ 医療機器、ペットフード、保険、医薬品 等
- ◆ 診療外領域で患者動物・飼い主・一次診療施設をサポートし、利便性を高める新規事業へ挑戦
 - 活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み
 - ➔ 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」
 - ➔ 動物病院経由での拡販を目指し、普及活動中
 - ➔ 複数の企業との協業交渉中



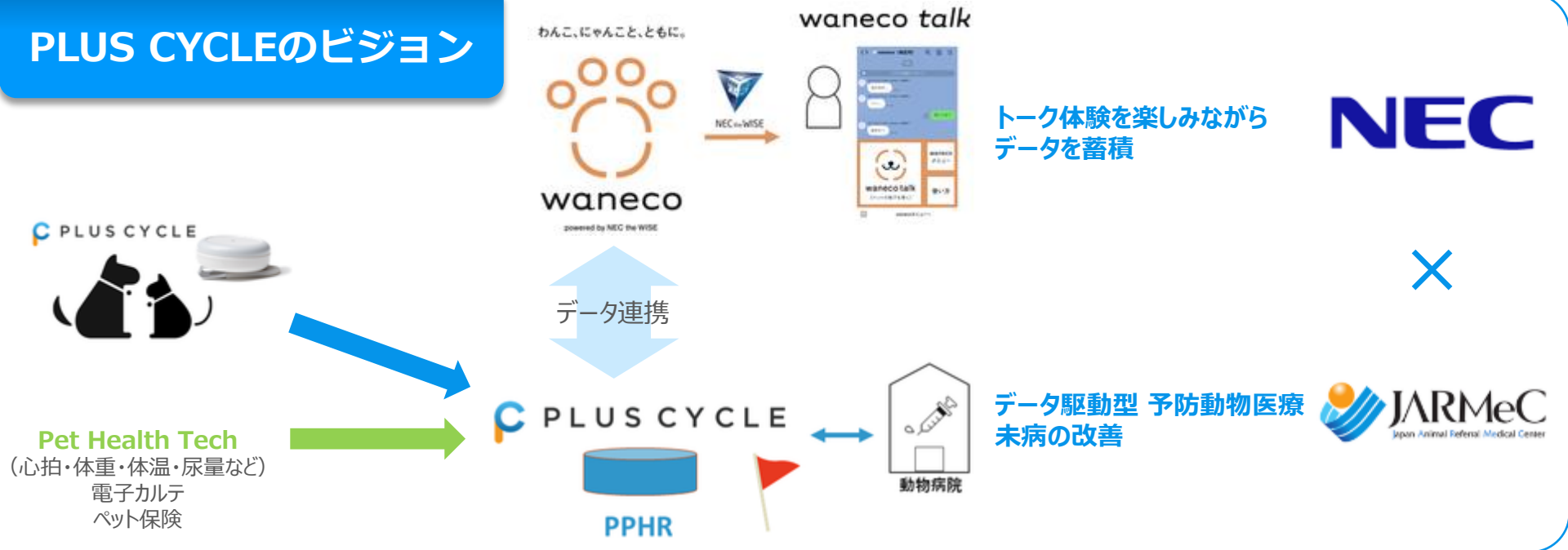
動物医療業界における総合的企業へ

プラスサイクルを使用した他社との連携

- 活動量計「プラスサイクル」を利用した日本電気(株)の体験サービス「waneco talk」の予約販売が(株)マクアケの運営サービス「Makuake」において開始
- 将来的には、様々なPet Health Techから得られる生態データや電子カルテ/ペット保険から得られる診療/疾患データを集積するPPHR*を構築

*Pet Personal Health Record
PHR：病院や薬局ごとに保存・保管している個人の医療データ

PLUS CYCLEのビジョン



各犬猫のデータに基づいたデータ駆動型 予防動物医療の実現を目指す

テルコム(株)の子会社化による事業領域の拡大

- テルコム(株)*の全株式を取得し子会社化検討のため、基本合意書の締結を決議
- 同社が構築してきた「全国規模の飼い主、一次診療施設との接点」と、当社グループの「二次診療サービス」が融合し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスが提供できることを企図

*テルコム株式会社：動物の在宅医療に必要な「酸素ハウス」（酸素濃縮器、ケージ、酸素濃度計等のセット）の販売・製造・貸与を全国規模で行う医療機器メーカー

酸素ハウス。



酸素ハウスを必要とするすべての方に、
もっと安心を届けられるように。

全国規模の
飼い主、一次病院との接点



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

動物にも人間と同じような
高度な医療を受けさせたい

二次診療サービス

両社の経営姿勢、経営方針が合致し、
中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスを提供

appendix



■ 動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類され、事業の継続を要請されている

◆ 新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組み

- 従業員全員に手洗い・手指消毒・マスク着用を義務付け
- 病院施設内のドアノブ、ボタン類の定期的な消毒
- 室内の換気、空気清浄機の運転等による環境除菌
- ご来院の方への立入り制限の実施、手洗い・手指消毒・マスク着用の奨励

当社グループは、従業員とその家族、来院する飼い主の安全確保、感染拡大防止に最優先に取り組んでいく所存

◆ 新型コロナウイルスによる将来的な影響

- 経済的理由から動物医療に対する支出減少への懸念
- 自粛ムードの高まりによる、遠方からの来院自粛への懸念

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2023年3月に開院予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	225名（非常勤18名を含む）※グループ全体（2021年9月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック（高度医療機器を用いた動物の画像診断センター）

2005年9月



株式会社日本動物高度医療センターを設立

2007年6月



川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業

2009年3月



「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける

2011年12月



名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業

2014年1月



株式会社キャミックを子会社化

2015年3月



東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）

2017年6月




キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業

2018年1月



東京病院を東京都足立区に開業



病院の区分		獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター

石川 隆行

044-850-1320

e-mail : takayuki.ishikawa@jarmec.jp